

なぜ勉強して試験を受けるのか？

小宮 一仁

我々は、物心ついた頃からいろいろなことを考え、思い、意識して、今日を迎えています。我々が良いと考えること、悪いと考えること、美しいと感じること、醜いと感じること、素晴らしいと思うこと、人のためになると思うこと、感じ方は人それぞれであると思いますが、我々人類は五感で物を感じ取り頭で物事を考えて生きています。しかし、我々が頭の中で考えていること、思っていることは、残念ながら形のあるものにしない限り、他人に理解してもらうことができません。

ん。頭の中にあるイメージを形にして他人に伝える力が技術です。

人は、自分の頭の中にあるものを他人に伝えるために様々な技術を持っています。科学者は、頭で考えた自然界の真理を、数式や文章を使って表現し他人に伝えます。芸術家は、頭に浮かんだ美を、絵画や音楽あるいは舞踊にして他人に伝えます。そして技術者は、頭で考えた人のためになる価値を、製品にして他人に伝えます。いくら頭に浮かんだものが素晴らしいものであっても、それを形にすることができなければ他人には分かってもらえません。だからこそ、頭で考える力・発想する力と同じくらい、他人に伝える技術力・表現力が大切です。

一方、人は頭の中にイメージできるものしか形にすることができません。どんなに高い技術力や表現力を持っていたとしても、頭の中に思い浮かばないものをつくることはできません。

イメージは、その人が持っている知識を結びつけることによって構築されます。知識がたくさんあれば、結びつきの数

が増えます。したがって、より多くのイメージをつくり出すためには、何よりも多くの知識を得ることが不可欠です。多くの知識を得るためには、読み、聞き、体験することを積み重ねなければなりません。理解力、判断力を養い、見聞き、体験したことを整理し、苦しくても努力を惜しまずそれらを記憶して、いつでも取り出せるようにしておかなければなりません。こうして、多くの知識が得られれば、知識から思考してたくさんのイメージを頭の中で形づくることができるようになります。

モーツァルトは音楽の天才だ、という人がいます。しかし、天才とは天賦の才能のことをいうので、生まれた瞬間に身に付いているもの、即ち感覚以外にはあり得ません。この意味で、モーツァルトは生まれた時から音感と記憶力に非常に優れた天賦の才能を持っていたといわれています。一瞬にして聞いた音階を聞き分け、記憶する力が卓越していたのです。彼は、頭の中で記憶した情報を再編し、美しいメロディを創造しました。しかし、これだけでは誰もモーツァルトの音楽を聴くことはできません。彼には、これを譜面に書き演奏す

る技術があったため、頭の中に芽生えた美しいメロディを他人に伝えることができたのです。モーツァルトを音楽の巨人にしたのは、彼が生まれてから学び、習い、血の滲むような努力をして身に付けた優れた技術力に外なりません。

実は我々は、小学校から学習してきた語学や算数・数学、理科や社会や芸術等の科目を通じて、多くの知識を得ると共に、理解力、判断力、表現力を身に付けて来たのです。我々が経験した試験も、それらの力を人に分かるような形にする舞台のひとつです。試験で良い点を取るために、我々は必要なことをたくさん憶える努力、憶えたことを頭の中で組み合わせて答えを構築する訓練、それを採点者にわかるように書いたり話したりして表現する練習を、時間をかけて行い力を付けて来ました。もし試験の本番で、これら3つのうちのひとつでも不十分であったら、我々は満足したと感ぜないでしょう。

もうお分かりだと思いますが、私は、表題の問い、“なぜ勉強して試験を受けるのか?”、に対する答えは、たくさんのイメージを頭の中で形づくり、それを人がわかる形にして伝

えるといった、人間ならではの醍醐味を味わうことができる
ようになるためだと思っています。

平成 27 年 4 月 1 日